

現代中国語における中間構文の範疇に関する一考察

－アクション・チェーンに基づいて－

An Analysis of the Scope about Chinese Middle Construction: From the Perspective of Action Chain

顧 彬楠
Gu Binnan

Abstract

Academics have been arguing for how to define the scope of the Chinese Middle Construction. When defining the scope of Chinese Middle Construction, we could not completely refer to the criteria of the English Middle Construction. This paper further describes the action chain of the Middle Construction with detailed insight. The Study shows: 1) the Middle Event is composed of two events: “transitive event with energy transmission” and “event which shows property”, and 2) the property of the subject resists (or facilitate) the behavior of the implied agent that the property of the subject is profiled. Those could be unique features of the Middle Construction. Then the features are used to analyze the Chinese Middle Construction. After analysis, the B type of the structure “NP+V 起来+AP” which centers on “V 起来”, and the structure “NP+能 / 能够 / 可以+VP” could accord with the features listed above, thus this paper defines those as the Chinese Middle Construction.

キーワード：中間構文、範疇、アクション・チェーン、中間事態、属性

Keywords: The Middle Construction, Scope, Action Chain, the Middle Event, Property

1. はじめに

以下の例 (1) ~ (5) において、主語名詞 “这种方式” “床” “政治看法” “帆布” “这支笔” はそれぞれ動詞 “操作” “摸” “笑”¹⁾ “磨” “用” が表す動作の対象として捉えられている。話し手の視点が動作の対象に置かれる点は受動文と似ている一方で、述語動詞に何もヴォイス標識を付けていない点では能動文との共通点が見られる。このような能動文と受動文の間に位置している構文を中国語の「中間構文」とみなす研究が多い。

(1) 这种方式不仅操作起来方便, 还因收费标准相对较低, 可以节约企业结算成本。(《新华社》CCL)

(この方法を実施するのは便利だし、費用が相対的に低いし、企業のコストを節約できる。)

(2) 这就是床, 摸上去很硬。 (《大陆作家》CCL)

(これはベッドだ、触って見るととても硬い。)

- (3) 有两个大缺点我可以告诉你，第一个就是对政治的判断力很低，政治看法是很可笑的。

（《李敖对话录》CCL）

（二つの大きなデメリットを教えてあげましょう。一つ目は政治に対する判断力が低く、政治の考え方はとてもばかばかしいことです。）

- (4) 帆布结实耐磨，但它不柔软，穿在身上不是那么舒服。 （《世界 100 位富豪发迹史》CCL）

（帆布は丈夫で長持ちするが、柔らかくないので、着心地がそれほど良くない。）

- (5) 这支笔还可以用。 （微博 BCC）

（このペンはまだ使える。）

中国語の中間構文に関する研究では、Sung (1994) が最も早い。Sung (1994) では、例 (1) のような“NP+V 起来+AP”構文は英語の中間構文と類似する特徴(非明示的動作主、修飾語、総称性など)が多く見られるため、当該構文が中国語の最も典型的な中間構文であると指摘されている。Sung (1994) 以外にも、何文忠 (2005, 2007)、Han (2007)、周晓岩・高騰 (2007)、余光武・司惠文 (2008)、熊学亮・付岩 (2013) などと同じく“NP+V 起来+AP”を中国語の中間構文として位置付けている。“NP+V 起来+AP”構文以外にも、例 (2) のような“NP+V 上去 / 来+AP” (曹宏 2004、纪小凌 2006 など)、例 (3) のような“NP+可 V / V 人 / 难 V / 好 V” (古川 2005)、例 (4) のような“耐 / 抗 / 经”構文 (蔡美淑・张新华 2015)、例 (5) のような“NP+能 / 可以+VP” (蔡美淑・张新华 2015 など) といった文を中間構文とする主張も見られる。さらに、次の例 (6) と例 (7) のような受身マーカーを伴い受事主語文を中間構文とする研究 (Ting 2006、高秀雪 2011) がしばしば見られる。

- (6) 可惜我又补充了一句：“不过，我觉得，燕麦粥有点煮糊了”。 （《读者》CCL）

（惜しいが、私はまた「でも、オートミールが少し焦げてると思う」と一言付け加えた。）

- (7) 我日夜盼着，半夜醒来，枕头哭湿了一半。 （《作家文摘》CCL）

（私は日夜待ち望んだ。夜中に目が覚め、枕が涙で半分濡れるほど泣いた。）

しかしながら、例 (1) ~ (7) にはそれぞれ異なる特徴が見られ、同じように「中間構文」の範疇に入れるのは妥当ではないと考えられる。このように、中国語の中間構文の研究において、どのような構文がその範疇に属するのを含め、統一的な結論には達していない。中国語の中間構文における独自の特徴と制約をさらに深く追究するためにも、まずはその範疇を明らかにする必要があると考えられる。中間構文 (the Middle Constructions) は Keyser & Roeper (1984) が初めて提案した用語であり、例 (8) に見られるように述語動詞が他動詞の能動形でありながら、他動詞の意味上の目的語が主語として働く、能動文と受動文の中間的性質を持つ構文を指す (Keyser & Roeper 1984:382)。

(8) a. The door opens easily.

(このドアは簡単に開く。)

(Keyser & Roeper 1984:383)

b. Bureaucrats bribe easily.

(官僚を買収することは簡単だ。)

(Keyser & Roeper 1984:405)

c. This meat doesn't cut.

(この肉は切れない。)

(Fellbaum 1986:9)

英語の中間構文についての研究は 1980 年代から盛んに行われており、代表的な先行研究²⁾では以下のように様々な形式的、意味的特徴が指摘されている。

- a) 述語動詞は通常他動詞の能動形で現れる。
- b) 他動詞の意味上の目的語が主語として現れる。
- c) 他動詞が表す行為の動作主は明示されず、この非明示的動作主³⁾は総称的に解釈される。
- d) 特定の出来事ではなく、主語の属性⁴⁾や総称的な行為の可能性を描写する。
- e) 通常副詞 (easily, well など) 句や助動詞 (will, won't など) が現れる。

英語と異なり、中国語は動詞の形態変化を伴わないため、英語の基準をそのまま使用するのには妥当性に欠ける。そのため、本稿ではまず、分析する際に用いられるアクション・チェーンの概念とその有効性について説明する。次に、Langacker (2014) が提案した中間構文のアクション・チェーンについてより詳しく考察した上で、中間構文が用いられる動機付けを解明する。以上のことを踏まえ、中間構文と他の類似構文との相違点及びその範疇について論じる。

2. アクション・チェーンの有効性

アクション・チェーン (action chain) は認知言語学で用いられる「事態の参与者間のエネルギー伝達によって、その事態描写の特徴を説明する」モデルである (Langacker 2008)。一つの事態を描写する際に、どの参与者を強調してプロファイルするか、エネルギー伝達のどの部分を抽出して描写するかなどによって、アクション・チェーンもそれぞれ異なる。例えば、以下の図 1 は“他吃完了这个苹果”といった最も典型的な他動的事態を一般化したものである。

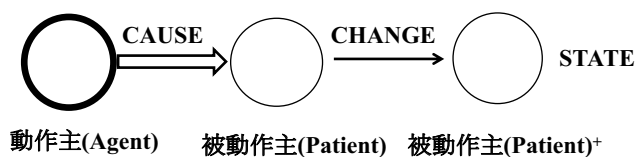


図 1 他動文のアクション・チェーン

左端の太丸は話し手が視点を置き、強調してプロフィールする対象（動作主“他”）であり、動作主から延びた二重矢印は参与者間のエネルギーの伝達（“他”が“苹果”に対して「食べる」といった行為を行うこと）を示す。このエネルギーの伝達の関係が CAUSE である。次に、このエネルギーを受ける参与者（被動作主“苹果”）から延びた一重矢印は、非エネルギー的な状態や位置の変化（“苹果”が食べられていなかった状態から食べられた状態に移行すること）を表している。この被動作主の状態変化が CHANGE である。その結果、右端の丸は被動作主が動作主からエネルギーを受け、状態“完”（“苹果”が全部食べられた状態）に到達したことを表している。この結果状態が STATE である。

認知言語学の視点から見れば、文は全てその発話者によって認識された事態を記述するものである。アクション・チェーンは人間の事態認知の過程に基づいて作られたモデルであり、人間の認識を反映していることから、これを通して、中間構文が用いられる動機付けとその本質を明らかにすることができると考えられる。このように、中国語の中間構文の範疇について、形式や意味に基づいた考察だけより、アクション・チェーンを通して得られた中間構文の本質を前提として考察するほうがより適切であると言える。

3. 中間構文のアクション・チェーン

中間構文に関するアクション・チェーンとして、Langacker (2014:228) は以下の図 2 を提示し、次のように述べている。

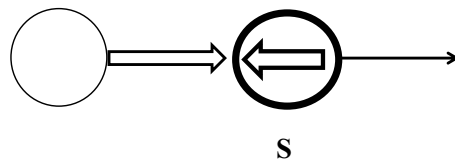


図 2 中間構文のアクション・チェーン (Langacker2014:228)

The efforts of an agent are invoked but remain unprofiled. The mover is once more selected as subject, there being no other participant in the profiled portion of the action chain. With the mover as relational figure, the interactions it participates in – especially those it initiates – receive augmented salience. In particular, the resistance it offers to the agent’s exertions (or in other examples, its facilitation of those efforts) comes to the fore in this construction, as indicated in Figure2 by the double arrow internal to S. Though volition is not involved, this resistance (or facilitation) makes the mover agent-like to some degree.

（動作主から発せられたエネルギーはプロフィールされていない。アクション・チェーンでは、プロフィールされるのは主語として選ばれる被動作主 S だけである。被動作主がトラジェクターとして参与するインタラクション、特に被動作主が発するインタラクションはさらに重要になっている。図 2 の二重矢印が示すように、被動作主 S は一種のエネルギーを発して、動作主

からのエネルギーに抵抗する（またはそのエネルギーを促進している）。被動作主は意図的にエネルギーを発したわけではないにもかかわらず、この抵抗力（或いは促進力）はある程度被動作主が動作主のように働く機能を与えている。）(Langacker2014:228 日本語訳は引用者による)

以下では英語の中間構文の特徴を参照しながら、中間構文の事態認知（図 2）を基盤として、より詳しく中間構文のアクション・チェーンを考察する。図 3-1 と図 3-2 で示されるように、中間構文のアクション・チェーンは更に二つのケースに分けられる。

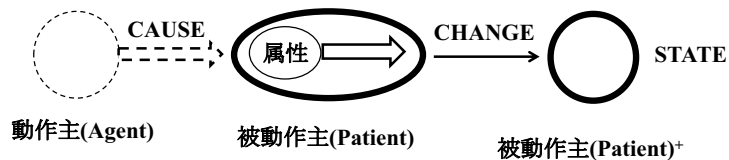


図 3-1 中間構文のアクション・チェーン①

まず、This book sells well を用いて図 3-1 を説明する。プロフィールされた被動作主「この本」は主語位置に置かれている。動作主「ある人」は言語化されていないため、破線で示されている。動作主は「この本」に「売る」という行為を加える。そして、「この本」自身を持っている「内容が面白い」、「値段が安い」といった属性が動作主の「売る」行為を促進している。その結果、被動作主「この本」の属性がさらに際立つことになる。

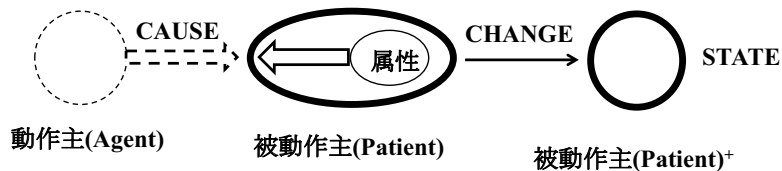


図 3-2 中間構文のアクション・チェーン②

次に、The door opens with great difficulty を用いて図 3-2 を説明する。動作主「ある人」は「開ける」という行為を通して、「このドア」にエネルギー伝達を行う。そして、「このドア」自身を持っている「重い」、「ドア軸が錆びている」といった属性は動作主の「開ける」という行為に抵抗している。その結果、被動作主「このドア」の属性がさらに際立つことになる。

以上の分析からわかるように、中間構文は「エネルギーの伝達がある他動的事態」と「主語の属性を表す事態」という二つの事態から構成されている。当該構文では、被動作主が持っている属性は非明示的動作主からの行為に抵抗する（或いは促進する）ことによって、中間構文を成立させる。また、この被動作主が持っている属性の影響で、被動作主がまるで事態の発動者（動作主）のように自発的に事態を起こすことになる。話し手はこのような「事態の発動者」と「事態の対象」を共に表している被動作主の属性を強調するために、中間構文を用いるのである。

4. 中国語中間構文の範疇に関する分析

本節では、上で考察した中間構文のアクション・チェーンに基づき、中間構文の特徴と動機付けを考慮しつつ、中国語の中間構文の範疇について考察する。

4.1 “NP+V 起来+AP”

まずは、中国語の中間構文として先行研究で最も多く議論されている“NP+V 起来+AP”構文を考察する。当該形式の典型例としては、次の例(9)～(12)が挙げられるが、そのうち、例(11)や(12)のような知覚動詞が用いられるものも見られる。

- (9) 肉类食物里，我不爱吃鱼肉，因为鱼肉刺太多，吃起来费劲儿。（《健康养生》CCL）
（肉類の中で、私が魚を好まない理由は、魚は骨が多すぎて食べるのが面倒だからだ。）
- (10) 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，解决起来比较容易。（《邓小平文选3》CCL）
（この数年我々は二人のリーダーの更迭とインフレの問題に遭ったが、核心的な方策をとったため、比較的容易に解決した。）
- (11) 这些话听起来实在动听，然而却全无一点真情。（《女记者与大毒梟刘招华面对面》CCL）
（これらの言葉は実に感動を感じられるが、真心がこもっていない。）
- (12) 他的理由看起来“迂腐”，但很充分。（《科技文献》BCC）
（彼の理由は少し古臭く感じられるものの、とても十分だ。）

例(11)と(12)では、“V 起来”における動詞には“听”“看”のような知覚動詞が用いられる。このような知覚動詞による“V 起来”構文では、“V 起来”が意味上では虚化されることが多い。例えば、例(12)では、“看起来”における“看”という動詞が実際に「見る」という動作とはあまり関わらず、“看”という動詞の実義が失われ、話し手の推測を表すだけである。

Langacker (2014:223)によると、人間の知覚的な経験を表す動詞によって構成される構文では、行為を発するモノは経験者(Experiencer)と呼ばれる。これらの知覚経験において、経験者はある種の精神的活動に参加し、その被経験者、つまり知覚対象物(Absolute)は経験者から影響されない(知覚対象物はエネルギー源でもなく、エネルギーの受け手でもない)。図4が示すように、破線の矢印は経験者によって作られる知覚対象物との非物理的なインタラクションを示し、経験者と知覚対象物の間にエネルギーの伝達がないことを表している。そのため、知覚動詞によって構成される“V 起来”構文は、中間構文のアクション・チェーンの条件を満たさない。

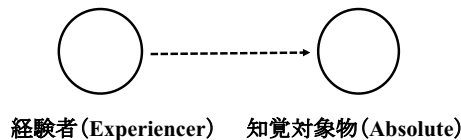


図 4 知覚動詞による構文のアクション・チェーン (Langacker2014:223)

以上の分析によると、中間構文を構成する二つの事態のうち、「エネルギーの伝達がある他動的事態」が設定し得ないため、知覚動詞による“NP+V 起来+AP”構文は中間構文として捉えにくいと考える。

一方、例 (9) と (10)、形式上では主語になるものは述語動詞の対象であり、動作主は存在しているが、非明示的である。VP “吃起来” “解决起来” のような述語動詞は虚化程度が高い “看起来” とは異なり、具体的な意味を持っているため、文中から省略できない。このような具体的な動作行為を表す動詞はエネルギー伝達を行うことができるため、例 (9) と (10) は「エネルギーの伝達がある他動的事態」を有していると言える。そして、AP “费劲儿” “容易” は “V 起来” と共起することにより、主語の属性を表すことができ、例 (9) と (10) は主語の属性を描写する文であると言える。即ち、両構文は「主語の属性を表す事態」を有している。そのため、例 (9) と (10) のような “V” が知覚動詞でない “NP+V 起来+AP” 構文は上で提起した中間構文の統語的・意味的制約に合致することから、典型的な中間構文であるとみなす。

4.2 “NP+V 上去 / 来+AP”

“NP+V 起来+AP” 以外にも、例 (13) (14) のような “NP+V 上去 / 来+AP” も中国語の中間構文であると主張する研究 (曹宏 2004、紀小凌 2006、蔡淑美 2013 など) が見られる。

(13) 这沙发坐上去很舒服，但样式单调而古板。 (《刘心武短篇》CCL)

(このソファは座り心地は良いが、デザインはが単調で古臭い。)

(14) 这件事说来容易，做起来极不容易。 (《1994 年报刊精选》CCL)

(この事は簡単そうに見えるが、実際にやって見るととても難しい。)

しかしながら、次の例 (15) ~ (19) が示すように、“NP+V 上去+AP” に用いられる動詞に対する制限は “NP+V 起来+AP” よりも厳しい。

(15) 这沙发坐{起来/上去}很舒服，但样式单调而古板。

(16) 这些话听{起来/上去}实在动听，然而却全无一点真情。

(17) 他的理由看{起来/上去}“迂腐”，但很充分。

(18) 肉类食物里，我不爱吃鱼肉，因为鱼肉刺太多，吃{起来/*上去}费劲儿。

- (19) 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，解决{起来/*上去}比较容易。 (再掲改)

例(18)と(19)の“V起来”が“V上去”に置き換えられない一方で、例(15)～(17)では“V起来”は“V上去”に置き換えることができる。例(15)の“坐”は体で物体に接触することを表し、例(16)の“听”は耳で音・声に接触して感じ取ることについて述べ、例(17)の“看”は目で物の形や色などに接触して知覚することを表している。このように、“NP+V上去+AP”に用いられる動詞は一般的には例(15)～(17)のような「+接触」の意味要素を持つ知覚動詞であると考えられる。

また、付岩・陈宗利(2017:32)では、“V来”は“V起来”がさらに虚化された形式であると指摘されている。次の例(20)～(23)が示すように、“NP+V来+AP”は通常知覚動詞を用いており、知覚動詞による“NP+V起来+AP”構文と置き換えられる場合が多く見られる。その一方、“操作”“解决”などの具体的な動作行為を表す動詞は“NP+V来+AP”構文に用いられない。

- (20) 这件事说{起来/来}容易，做起来极不容易。
 (21) 他的理由看{起来/来}“迂腐”，但很充分。
 (22) 这种方式不仅操作{起来/*来}方便，还因收费标准相对较低，可以节约企业结算成本。
 (23) 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，解决{起来/*来}比较容易。 (再掲改)

以上の考察から分かるように、“NP+V上去/来+AP”に用いられる動詞は通常知覚動詞であるため、知覚動詞による“V起来”構文と同様に中間構文として捉えられないと考える。

4.3 “NP+可V/V人/难V/好V”

古川(2005)は、“可V/V人” (“叫人V”から語彙化された形式)と“好V/难V”(潜在的な動詞Vから派生された形式)という二つの種類の形容詞から構成される構文を典型的な中間構文であると指摘している。例えば、

- (24) 女人的暴力很可怕。
 (女の暴力はとても怖い。)
 (25) 没想到这儿的景色这么迷人。
 (この景色がこんなに美しいとは思わなかった。)
 (26) a. 远远的听到村犬的吠声，非常的好听。

(遠くから聞こえる犬の遠吠えはとても美しかった。)

b.他没想到过夏天这么难受。

(夏がこんなに辛いなんて、彼は思わなかった。)

(27) a.事情的确是不好办。

(この事は確かにやりにくい。)

b.就是先生讲点理，太太小姐们也很难伺候。

(ご主人様は道理が分かる方だが、奥様とお嬢様たちにはお仕えしにくい。)

(例 22～25 は古川 2005:27-28 からの引用による)

古川 (2005:27) では、例 (24) と (25) の“可怕”“迷人”のような“可 V/V 人”型の形容詞における潜在的な動詞は主に人間の喜怒哀楽を表す動詞であると指摘している⁵⁾。また、“好 V/难 V”型に用いられる形容詞は二つの種類に分けられ、一つは例 (26) の“好听”“难受”のような「感覚の効果」を表すものであり⁶⁾、もう一つは例 (27) の“好办”“难伺候”のような「あることをするのが容易であるかどうか」を表すものである⁷⁾。

古川 (2005) の分析によれば、“NP+可 V / V 人 / 难 V / 好 V”において、潜在的な動詞の主体は文中に現れず、文全体が主語の属性を表しているため、“NP+可 V / V 人 / 难 V / 好 V”は典型的な中間構文であるとしている。しかし、このような潜在的な動詞は中間構文のアクション・チェーンでは、エネルギー的な作用に関与できないため、エネルギーの伝達を行うことができると言える。したがって、以上の“NP+可 V / V 人 / 难 V / 好 V”構文は「主語+形容詞述語」として見なすべきであると考えられる。そして、このような形容詞述語文ではエネルギーの伝達が読み取れない、つまり中間構文を構成する二つの事態のうち、「エネルギーの伝達がある他動的事態」が存在しない。故に本稿における中間構文の定義に従えば、“NP+可 V / V 人 / 难 V / 好 V”構文は中間構文ではないとみなす。

4.4 “耐 / 抗 / 经” 構文

蔡美淑・张新华 (2015:202) は、以下の例 (28) が示すような“耐 / 抗 / 经”構文は中間構文であると主張している。

(28) a.华为手机抗摔也抗用，我还是很喜欢的。 (微博 BCC)

(ファーウェイの携帯は衝撃に強いし、持ちが良い、やはり好きだ。)

b.西装比衬衫更耐穿，而且价格不菲。 (《1998年人民日报》CCL)

(スーツはシャツより持ちが良い、しかも値段が高い。)

c.她的眼睛越来越不经用了。 (《作家文摘》CCL)

(彼女の目はますます使えなくなる。)

蔡美淑・張新華（2015）の主張によると、NPの“華為手機”“西裝”“她的眼睛”はそれぞれ動詞の“摔”“穿”“用”の受け手であり、これらのNPの属性は動詞によって表されている。しかし、述語の“抗摔”“耐穿”“經用”は“很”“非常”などの程度副詞で修飾されることができ、形容詞の性質を有して一語化されていると言える。そのため、以上の例文は4.3の“NP+可V/V人/難V/好V”と同様、「主語+形容詞述語」として見なすべきであると考えられる。このような形容詞述語文ではエネルギーの伝達がないため、中間構文のアクション・チェーンの条件を満たさない。故に本稿における中間構文の定義に従えば、“耐/抗/經”構文は中間構文ではないとみなす。

4.5 “NP+能/能够/可以+VP”

蔡美淑・張新華（2015）は次の例（29）～（31）のような“NP+能/能够/可以+VP”を中間構文の範疇に入れている。

- (29) 非专用的读写器不能读写 IC卡的内存，也无法伪造。 （《1994年报刊精选》CCL）
 （非専用のリーダー・ライターでICカードのメモリーを読み込むことができないため、偽造することもできない。）
- (30) 我有一种感觉，这件事可以解决。 （《呓语梦中人》BCC）
 （このことが解決できる気がする。）
- (31) 虽然说鲜藕也可以吃，但还是要注意卫生。 （《从头到脚要美丽》CCL）
 （新鮮な生の蓮根は食べられるが、やはり衛生に注意しなければならない。）

“NP+能/能够/可以+VP”では、被動作主が持っているある属性が動作主からの行為を許容する（“能/能够/可以”の場合）か、それとも許容しないか（“不能/不能够/不可以”の場合）が表されている。それぞれ図5.1と5.2のように示される。

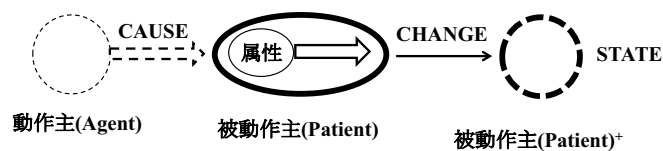


図 5.1 “NP+能/能够/可以+VP”のアクション・チェーン①

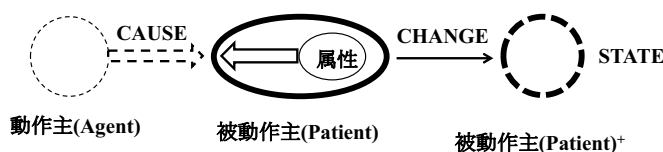


図 5.2 “NP+不能/不能够/不可以+VP”のアクション・チェーン②

“NP+能/能够/可以+VP”では、NPの属性を表すAPが欠け、助詞“能/能够/可以”を通して、NPの使い道や機能など、或いは事態の可能性を表している。STATEの部分と言語化されていないため、虚線で示している。しかしながら、次の例(32)、(33)で示すように、“NP+能/能够/可以+VP”と“NP+V起来+AP”がそれぞれ表すNPの属性の詳細度は異なる。

(32) 我有一种感觉，这件事可以解决。 (再掲)

(33) 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，解决起来比较容易。 (再掲)

例(32)の“可以解决”からは、主語“这件事”には「解決できる」という可能性しか読み取れず、具体的どのような属性(簡単か難しいか)が有するのかは捉えにくい。その一方、例(33)では、この問題の属性「簡単、解決しやすいなど具体的な属性」が読み取れる。即ち、“NP+能/能够/可以+VP”は主語NPの属性を表せるが、“NP+V起来+AP”が表す属性のように詳しくはない。

以上のように、“NP+能/能够/可以+VP”には「エネルギーの伝達がある他動的事態」と「主語の属性を表す事態」という二つの事態が含まれている。ただし、“NP+能/能够/可以+VP”で描かれるNPの属性は、“NP+V起来+AP”が表す属性のように詳しくないため、非典型的な中間構文として捉えられるものであると言える。

4.6 受事主語文

Ting(2006)、高秀雪(2011)では、中間構文の範疇を広げ、中国語の全ての受身マーカーを伴わない受事主語文は中間構文であると指摘されている。受身マーカーのない受事主語文はよく例(34)が示すように「NP_受+VP」の形で表され、「意味上の受動文」とも呼ばれている。

(34) 燕麦粥有点煮糊了。/ 半夜醒来，枕头哭湿了一半。 (再掲改)

(オートミールが少し焦げてる。/ 夜中に目が覚め、枕が涙で半分濡れるほど泣いた。)

例(34)ではNP_受はVPの意味上の目的語であり、文全体は受動の意味を表している。VPが“煮糊”と“哭湿”のような動補構造の形を用いているため、これらの行為を表すアクション・チェーンはSTATEの分節を有していることが分かる。そして、“煮”“哭”といった動作行為は人によって行われるものであることから、非明示的動作主の存在が含意されていると言える。これらの点は中間構文と一致している。しかし、例(35b)と例(36b)が示すように、意味上の受動文では主語と述語の間に“被”を加えても文が成立する一方で、中間構文では主語と述語V起来の間に“被”を加えると、非文が生み出されることになる。

- (35) a. 燕麦粥有点煮糊了。 / 半夜醒来，枕头哭湿了一半。
 b. 燕麦粥有点被煮糊了。 / 半夜醒来，枕头被哭湿了一半。
- (36) a. 我不爱吃鱼肉，因为鱼肉刺太多，吃起来费劲儿。 / 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，解决起来比较容易。
 *b. 我不爱吃鱼肉，因为鱼肉刺太多，被吃起来费劲儿。 / 这几年我们出现了两个领导人更迭以及通货膨胀这样的问题，因为有个核心，被解决起来比较容易。

中間構文と意味上の受動文の最も大きな違いは主語の性質が異なるところにある。中間構文における被動作主の NP は述語動詞の意味上の目的語であると同時に、文全体の表す属性の主体でもある。この属性は中間事態を成立させる根本的な原因であるため、中間事態の発生を促す機能を有していると言える。この意味では、中間構文の主語は完全な受事主語とは言えない。故に、中間構文に“被”を加えると非文になるのである。中間構文とは異なり、意味上の受動文のアクション・チェーンは以下の図で解釈することが可能である。

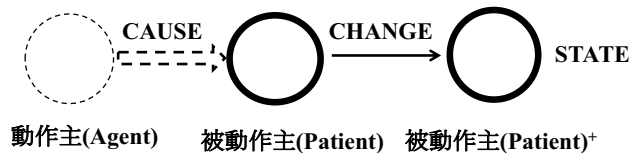


図 6 意味上の受動文のアクション・チェーン

意味上の受動文では、被動作主とその被動作主に起こった変化がプロファイルされる。破線で表す動作主は相対的に背景化され、言語化されていない。中間構文とは異なり、意味上の受動文における主語はエネルギーの受け手であるが、エネルギーの源（エネルギーを発する動作主）として認識されない。故に、意味上の受動文では、受事主語の前に“被”を加えることができる。一方、文全体が実際に起こった事件を表すため、意味上の受動文には「主語の属性を表す事態」が欠けている。そのため、本稿における中間構文の定義に従えば、意味上の受動文は中間構文ではないとみなす。

5. おわりに

以上、本稿では中間構文のアクション・チェーンを考察した上で、中国語の中間構文が用いられる動機付けを解明し、中国語の中間構文の範疇について考察を行った。本稿の考察した結果をまとめると、以下の通りになる。

- 1) 中国語の中間構文は「エネルギーの伝達がある他動的事態」と「主語の属性を表す事態」という二つの事態から構成されている。当該構文では、被動作主が持っている属性の影響で、被動作主がまるで事態の発動者（動作主）のように自発的に事態を起こすことになる。話し手はこのような「事態の発動者」と「事態の対象」を共に表している被動作主の属性を強調するために、中間構文を用いる。

- 2) “NP+V 起来+AP” (知覚動詞によるものは除外する) と “NP+能 / 能够 / 可以+VP” は「エネルギーの伝達がある他動的事態」と「主語の属性を表す事態」の二つの事態から構成され、文全体は被動作主のある属性を表しているため、本稿で提起する中間構文の統語的・意味的制約に合致することから、中間構文であると考えられる。

注

- 1) 古川裕 (2005) では、“可 V/V 人” は“叫人 V” から語彙化された形式であると指摘されている。つまり、“可笑” という形容詞には“笑” が潜在動詞として捉えられる。
- 2) Keyser & Roeper (1984)、吉村 (1999)、Fellbaum (1985) などによるまとめ。
- 3) Keyser & Roeper (1984) は“all by itself” (一人で) を加えられるかどうかによって、中間構文には必ず非明示的動作主が存在することを証明している。
 - a. The boat sank. → The boat sank all by itself.
(この船は沈んだ。) (Keyser & Roeper 1984:405)
 - b. Bureaucrats bribe easily. → *Bureaucrats bribe easily all by themselves.
(官僚を買収することは簡単だ) (Keyser & Roeper 1984:405)

“all by itself”は外力の影響がなく、動作主がないことを示すため、能格動詞文 a では動作主が含意されていないことがわかる。一方、例文 b が“all by itself” をつけると文が成立しないのは、“bribe”という動作が主語の“bureaucrats”から発せられるものではなく、外力の影響によるものであり、つまり非明示的動作主が含意されているからである。また、Fellbaum(1985)によれば、この非明示的動作主は総称的 (generic) であり、以下のように“people in general” (誰でも) によって表示されることができる。そして、この総称的動作主によって、中間構文全体の解釈は総称的解釈になる。

This door opens easily. → People in general, can open this door easily.

- 4) 吉村 (1995:253) では、中間構文が能動文と受動文両方の特徴を兼ね備えている一方で、文全体の解釈が主語に対する「属性描写」となり、以下の例が示すように他の類似構文とは明らかに異なっていることが指摘されている。
 - a. It is no trouble to wash the clothes..., because they are machine-washable / I have lots of time
(これらの服を洗うのは困難ではない。なぜかという、これらの服は機械で洗える/私はたくさんの時間があるからである。)
 - b. The clothes wash with no trouble..., because they are machine-washable /*I have lots of time.
(これらの服は洗いやすい。なぜかという、これらの服は機械で洗える/*私はたくさん

の時間があるからである。)

以上の例 a では、理由節として、対象 (the clothes) の属性 (machine-washable) を提示するか、対象の属性とは無関係な外因・個人的な理由 (I have lots of time) を提示するかのどちらを選択しても文が成立する。しかし、b の中間構文では、それに続く理由節として、対象の属性しか用いられない。

- 5) 他にも、“可愛” “可笑” “可悲” “烦人” “恨人” などが挙げられる。
- 6) 他にも、“好喝” “好看” “好玩儿” “难吃” “难看” などが挙げられる。
- 7) 他にも、“好懂” “好走” “好过” “难懂” “难忘” などが挙げられる。

参考文献

中国語

- 曹宏(2004)〈中动句对动词形容词的选择限制及理据〉，《语言科学》第3卷第1期 pp.11-28
- 曹宏(2005)〈中动句的语用特点及教学建议〉，《汉语学习》第5期 pp.61-67
- 蔡美淑・张新华(2015)〈类型学视野下的中动范畴和汉语中动句式群〉，《世界汉语教学》第2期 pp.196-210
- 付岩・陈宗利(2017)〈汉语中动结构的界定及其范畴〉，《外语研究》第2期 pp.30-35
- 古川裕(2005)〈现代汉语的“中动语态句式”——语态变换的句法实现和词法实现〉，《汉语学报》第2期 pp.22-32
- 高秀雪(2011)〈再谈汉语中动结构的界定〉，《现代语文》第4期 pp.112-116
- 何文忠(2005)〈中动结构的界定〉，《外语教学》第4期 pp.9-14
- 何文忠(2007)〈中动构句选择限制的认知阐释〉，《外语研究》第1期 pp.6-11
- 纪小凌(2006)〈再论汉语的中间结构〉，《上海大学学报》第6期 pp.123-130
- 熊学亮・付岩(2013)〈英汉中动句的及物性探究〉，《外语教学与研究》第3期 pp.3-12
- 余光武・司惠文(2008)〈汉语中间结构的界定——兼论“NP+V-起来+AP”句式的分化〉《语言研究》第1期 pp.69-78
- 周晓岩・高腾(2007)〈最简方案下的中间结构生成分析〉，《外国语言文学研究》第1期 pp.51-55

日本語

- 吉村公宏(1995)『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』、人文書院 pp.280-281

英語

- Ting, Jen(2006)The Middle Construction in Mandarin Chinese and the Pre Syntactic Approach[J] Concentric: Studies in Linguistics, 32(1) pp.89-117
- Fellbaum, C. (1985). *Adverbs in agentless actives and passives*. CLS:21- 31.
- Han, J(2007)*Argument Structure and transitivity Alternation* . City University of Hong Kong

- Keyser, S. J., & Roeper, T. (1984). On the middle and ergative constructions in English. *Linguistic inquiry*, 15(3) pp.381-416.
- Langacker, R. & Langacker, R. W. (2008). *Cognitive grammar: A basic introduction*. OUP USA, pp.355-356
- Langacker, Ronald W. (2014) Settings, Participants, and Grammatical Relations, *In meanings and Prototypes*. Routledge, pp.213-238
- Sung, Kuo-ming (1994) *Case Assignment under Incorporation*, University of California at Los Angeles.

用例出典

BCC : 北京语言大学 BCC 语料库

CCL : 北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库检索系统 (网络版)